へ13
3136
4止

門へ13
號3136
卷4

昭和九年九月十二日
購求

善惡の二道事

道家は高言あり。佛家に方便の善を立て、

謀計あり。市人の縣賣を偶偶乃虛言も其祿を

貪ハかれども。是皆家を齋へ身を脩る法にて

中ほどのつゝ實或は虛のうち半ばは

[illegible]

善惡ハ道中迷所一路見ハ迷人一筆通

大人の著述して大ひに行はれ既に數編を及
ぼし京類次の一小冊を予が編とよと書肆あつく
素より奴婢乃出代時より一寸雇の老婆番太豆腐
取て来る酒屋へ走れ土用見舞や歳暮の仕ひ
町花柳はれ、おきねど何でも甫で七九文
安清合にうけ迄も詰る処はたく拵へと陰行駒
の駄賃を酒まらぬ持ぬの愚戈は直ち場

と板問屋の口付は調も構ハず唯孔方を走る徒ハ
されば禍福門あり人の招く所ハ来る小子文盲人ハ
頼む処ハ試いあるを守貪福吉凶喜怒哀楽人間萬事
催足のせぬと便を軽ひめと虚ハ入ハ出ぬやと
故事法ハ先師の出売故人乃糟粕を貴ぶの法
されバ一口のつく法院ハ味ハ地獄の質
一ハ寶容を呈る色欲ハ甚さやう成

故るゆゑ誤字をくどくどしく書ちらし
細工戯言作りて魂のいらぎる世話の教訓
振大道好け氣根をわるくて汗をふきく
乃紙ゆゑ由る妻ひとと長くく

時嘉永二酉歳中夏水無月製本と作者の楽れ店
賞て桶町乃小籠に徒圍會の大方燈と密かに見さく

樂亭西馬述

夫善悪の差別ハ既ふ數編に著〻あれバ唯一二と爰ふ説ゆり
若と悪を雲泥のたゞひあるとこゝも別よむづかき事ハ
只二道ふて即座ふ大悪も善人と形るゆゑハ道理を変
我侭と捨法度に背ゆ我ゆゑ朋友心掛とハ善ふ至るよりを
外ふ人生れくハ白き糸ハ如く二葉の木芽ふ染て
赤くとも曲ることも又を何色ふも濡るゆ形れハ生ゆ
親の志ふ方ゆ濡るく教えさとをバものづくゝ若ふ
地ハ三枝鳥の反南太の糸宮ふ至てハ皆自然
あれども猿の狂言山陵ゆ乃羅ゆ〻〻教ふ

夫人の業ハ皆いづれも生あるものゝ續くる人間の
ことハくいふ本の肯き悪しきに深きハ多き勧めも耳をめて口嗜む
事ふなりむや
幼き時或ハ血氣なる頃又分別出きて天命を知る年 其を経て
あるべし一世のはじめ意を定むるとふへしかゝれバ今日の法を守り
行状身を正しく常に動れバ皆善人なり道に遠く悪業ハ
かならず何事も色欲の二ツより發る所なり此色欲迷ひも喜怒
哀楽の元ハ是程に控るにハ不及なるかる分限を省みて
身ハ止るべき所を過ざるハ是肝要なり色欲も種々なく

飽きもの故ハいかなる美人を見ても心動かず又着る衣服なれど
金銀ハ命の次なり強欲に貪る気ハ出ぬなり世渡りに大切なる
ハ主親の外命と金銀とぞかく見れバ実に雪の日雨の夕ありても
寝るがごとくして歩み足袋せずして諸に目前ま調べて
皆金銭乃徳なるべし
すべて万事の用向人倫ぞて八我ならぬ行届かねものよ
極まり親子兄弟互仕まら己が手足のごとくする故に東西も
るあれども善悪の二ツハ道理を得と考へ知りてかの教をよくせば
ありきも終りよきなるべき事慎むべき放蕩を

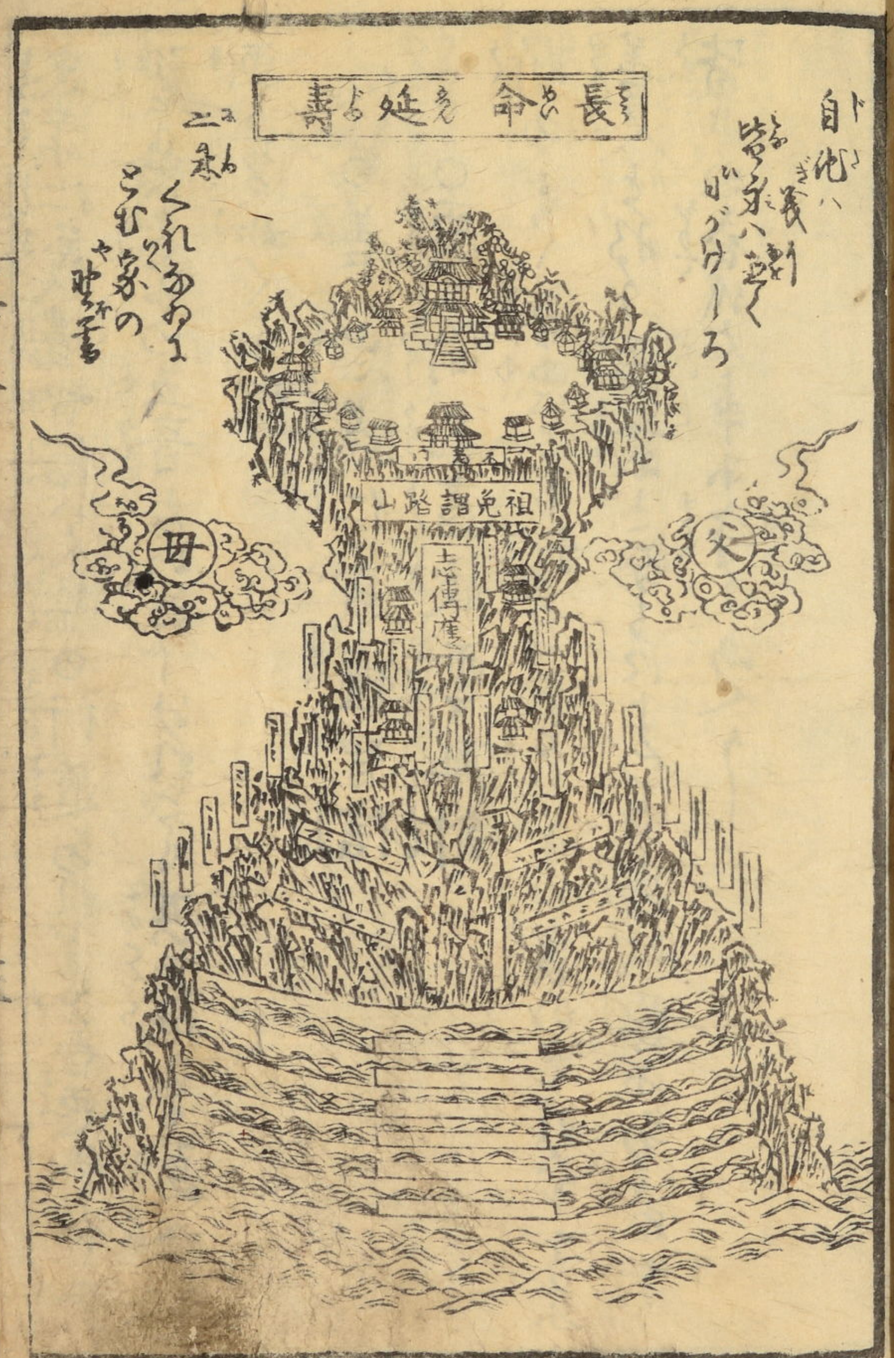
こゝ一皆分限と守るを高慢我儘ぬけ捨ぐる坂不為
時の法度ハ美く改こゝ下こまで解ゆを変ゑれとも
意ふ事ぐんと恐ばきこ呼ゐれバ守ぐる者一人も形く千里よ
果までも汚届くゐを

衆身善之圖

罪不作

とも いゝ

番頭 衆 別家 五百両
且衆 小遣 百両
妻衆 特系 二百両
僕従 十人 千両



忠孝仁義禮智信八人輪の行道あれども善悪ふたつ
ゆゑ五ぢ文字の五音をおもひけれども其天地ある支
画がる如くあり

○善　忠孝仁義禮智信

○悪　偷乞盗妓　零耻針

斯のごとく善悪さまざまの裏かえしたるふ
善人とあるは悪業とあるによりて裏は悪ふるゝぬ
皆さの表は大事ふ守りあくり

信
禮

仁
義

心ざし深の道ふかひあべ彩らびこそも神やせんと古く
より誰もいひ伝へる古事形れども我人ともにせろあれこそよ
れざるべき生死ハ伝心のくせよ何か急よ物もくぶ勝手ある
色欲妄言とあくべそ銘くく好さ神佛へ無理ふ願ひも意ま知
恵と浦芽ぶ原の親玉一すハ分の御仏へ参りてヨやく
ぶくトさあぐの願ひをと祈るハさあぐ銭湯の流しふ娘子
供の前合るが如く世間ふ部屋方ぬ見頁論にもとく
ヨさうい成田の不動さあがいつちあるぶとらえばヨさとハ堀の内
さあイエヨさハ大阪の系あさハ水天宮さあトゴひくの源氣伝

心あるうよりいうう弘ふなくぬ身勝手ふ願ひるふ神を
仏もあきれあくどさとぶハ萬民と数ハあふ義悪邪婬のふ
ハ悪人に記所ふ去あるぶ見ハ愚ある仏ぬひあひくとぶ悠親玉
の金龍山へ出お侯あり数ひ年に毎日く数万人の願をあるく
世結くくあるのまくねぬ拝あるさの釈迦牟尼仏今竜山乃
お墨ふ集りまくの降義あさるが何ぶも猫ある願を
取れぶも多くハ色欲の二ツが根ふ泥山あれバ法ふ脱もあべき
如ありぶをあるそれ夫と数ひあへが拝ハあれバ大ぶれ
多ハ押くあてもくひあふあるこども地獄ぬあふ関係

應報の見せしめ抔神おろかに説くあることハ善にみちびき
ためぞ雑有ありさ
諸人に利を授らせて神仏とも毎夜金龍山の御堂に寄合なされ
其日く額宝の手をひかせ指而とあそ大慈大悲観世音へ赤縁
利しあるに一心乃信ある者ハ幸にも少しの中にも商人の親仁が願
一同とぞ宝とうがお門でいでせがれがあるしくむまとあがちろめのごとよの
くそれてあきおひたんおやうちてまちらそのとをてまにハ向ふおまへへ
いふまで十六七のむすめを一人ともにくらにおねがひハどぞ主をせぬ
きあうてらいあくまくさんまんぶく又ありきてよりおまへのおねがひハ一同むこえびつ
どんげんさまおかぞ申しのおまとよのがよくかねきでまって おりくわづかに二月まもと
そうでうあどのがおきさねがあそりまして痛もとら まふらぬねやうふおもいすまひ おさこの中をも
そうしてむのきせがれが下女をどぶにもせつけねすうにあへそれからみせうのめそうさまの前
の方をまでくさいてくらしまして其のきおやよしがご三日まひ向てめそくくイヤごおとどよく

ゑへのう七八十ねんちやでおるゆうにおねがひやまするその後ハ三十ぐらいの女で十八九のむすめ
つくりの女ぞしと二人ほ目をつくあむかどうの宝をあめくどうぞだんなへ孫がうまれし
こんがらとその女びとかうかひとまえざしそれからちょぎの中をでとまちかうねやうたおまのり
くぎまりまし それが又こんどで死ますくわの肉のだんなさまへとまぢらくあらんとしてくれる
法りのでござりまするがどうぞよいあんだいふおやまのうをとしのいきるを見てくときらのとされ
るやうにおねがひやまんそうがおねがひハ一むまをあまらうまでうとうでまきまってもあんむ
いうまでぬうらぬぞよいがんあのうちへひたきうま目うやうれおまのりのでございう
ますとそれから又親ぢどのちうきもさけのせいでとやるの女へ夫をしが酒をたちまする
うらみぞうぞさとうつくもあるうきまするやくどうぞやくとれがひまたそしてそうれうややう
ねがひあそうまして二そしがりとまでびこくまするそうあまりのおさう申せから
まくさんまんざ夫からむ大しやうあどうからそく
不動明王金毘羅さまに向ひましたハ下ふさ故一寸の用にも
其日に届きまするがあるなら四国とは前のゆゑ定めし
でござりますといへバ「イヤそくまとの隨從ハ皆それがあるゆゑ
二十まいめへつゞく

ふくろう殿
恵比寿
布袋
毘沙門天

紀世ろん
水天宮
弘法大師

[illegible] 丈夫[illegible]さるべくもあらに毎日く[illegible]人の[illegible]ゆもよろ[illegible]
[illegible]さ[illegible]ば[illegible]さ[illegible]ば[illegible]女子どもハ其者でもおぎらうさとぞふ八月
祇園会の神輿と舁ふ聞てみまゐハ去猶ハ煩らくてかの
ぐねゆ名ゑ一猶仕合ゲコるかつさらう今年ハ是非かつぐとて
前ゑろうつ切ゑその下常様ひの[illegible]錦まき暑さ
ものとハぶ舁に出るも定やく伝ひの意ゑ[illegible]体のちんどん
あらぶ水汲なく[illegible]を清免不降をちゑひ清き衣と着て一ゑ
他意形くてひとう平[illegible]ゑ[illegible]ゑ神も納受ゆのんう
汗臭き臭ゑ汗とう紀く大聲上ぶ礼のかぎりあきあり

さる処婦の猶ハ半分氣ちがひの形ゑう庄屋どの一ゑ
ふさえ数珠掛け羽織りてまひもうみ行ハバ世上の法あも
ものく形るふ名ふひのふ
天子の祖影ある神輿ゑ[illegible]ふ匹夫下郎ハ身分にて坐の
勿体あきさゆあんや既ゑ神ゑ非礼を受ゑ直の頭ハ
[illegible]神有り御を汲て正しくせゑ祈ふゑとも神やゆ
ト[illegible]ゑう去形ゑら蜀も同ゑう思ゑ[illegible]ふ礼ゑ教
あゆや甚ゑう身の祈禱ゆもあふ沢郎ゑ[illegible]
と好ゑ不孝ゑ行孫の族ハ教ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ吉事ふく

即時に四方と夢る四えふ宣院して人ふ病身已も悪ぶ
と夢り又ハ思ひ沈押打ちて即死あるゞ時あり
一く守り者ハ人迄の場つも行まねるを形れども第三
心ふ高れぎりて変と行くぐさきたのやまちも有まぐれ
十二月の賽物で千両の請負といのうこれ投げて百あれ
無ふて紙当りたきあゞ欲の相合でハ一筆の欲情形を
大星の言葉のぢく書海苦世ふさ礼ふ大神宮打ちう
も狂空形り
叔預と掛らう神仏さあも毎日数万れ人者ハ一人くふ

其ふと聞解ぎく仍く去渡の上同じ中ふ孔と知ふ西
夢相ふ告げ方ひ又ハ御圓城ふて知しあふ中ふハ願望も
形く遊山半分にく請るも言ろうけ是で先諸人の気れ
形る見世物ふ孔ちえく説聞を面しとるり
年く歳と向ふ為の花合仍ろう第く年く世界の人
同じ二つ大海へ落る隅田川の流を絶きしてあるも
元の形ふ戻ふ日ハ飛鳥今日ふ日暮と月日弧
送るうち光陰の矢隙行駒ハ留ぐも止る事形し
されば一時片時もうと暮さ無あれとも凡人ハ行ふと

是ハ弱るゝ人めあく世の人はたゝ[illegible]ハ人を見る曲馬ハ
家りて走る如く陳ハ駒も曲馬も同しるはと馬は舞そ
其日ハ[illegible]物見遊山拾遺花衰楽ハ曲るの上ものもる
狂言ハ[illegible]道成寺ハ嫉妬の念團七九郎ハ[illegible]ハ彼羅
のちまゝ[illegible]久松定九郎ハ市[illegible]ハこれ色欲ニ是とゝて
知ひ楽むも見物も馬と家る役者もの世話馬も皆[illegible]
ゆく光陰は矢先もとゝく急碁碁も土馬ハ[illegible]娘形の
清姫もいつの門前ハ[illegible]比丘尼と家り[illegible]見為又まく
ハかくのとゝ又強欲と思ふ人裏ハ浮世[illegible]も[illegible]

と見ぬ[illegible]軽業の一本縄ハ[illegible]大切なる物と[illegible]
橋の綱ハ[illegible]小僧のごゝ又世渡りもきゝ中ハ山ハ[illegible]
仙人ハ高き梢ハ登りて落ハ同じ谷門ハ底の知れぬ
[illegible]る[illegible]ハ[illegible]人も鹿と見ぬ山と見ぬ危ふき組の桟敷
渡り海ハ[illegible]ハ阿漕浦ハ曳網のたび重ねれば荒海も暴風
[illegible]て命と大ひ鶏飼ハ飛ハ後の世も忘れて[illegible]
まゝ目ハ危ふきと見る故ハ男心[illegible]ハ見ぬ又[illegible]
わふきのハ市中ハ住居ハ利欲の墨と染て[illegible]
谷人居ハ心の波ハたゞよひ[illegible]元まの私とゝ[illegible]の上と

大海の如く我慢の鼻八寸ばかり特人漢山の岳
ようもたるの塔まで高ばの上の安きに居て一本俗のあ
あきと高まぶど利欲に迷ひかえつく元の網戒消ばし
身代の腰は骨と新徒程ひと我を忘れて擬干よう居ざるう
小結ばべ是らハ商人の如きとあふ
堀の角の祖師佛説法の氣どうにく宮ふとある所ハ人の欲ある紀
親仁のしが年七十歳ハ人も子供あく唯明く宜人貧欲まて
意地ハ苦乃と絶とるあ或日所持の土蔵ハ宮つく日波も衰向
ハ丈夫小見ればもや我造りてよう三十余年ハ星霜紙

俳ばハ高ぜんと梁柱の折ハ発ふく思ふあり依て我汝と根絶の後
僕ぜんと思へども是まハ高の物入あれば見ぬくれ代の義くあると
おどけに云ふ其狀親仁ハ愛小出蔵乃精頭ハくいひるハ我く
永く意と思ふ今日の如くまてハ嬉れとあ
俳あるら我くハ又あるハ孫のハ年高れて肉の土蔵骨ハ高と身
弱ま命の梁柱発ふく見えさせあを切文欲き怒ハむあり
出蔵の器まハ振つぎも形ふ人間の命ハを結ひもあ
ぐ一生年百ふみ度常ふあ和魂をいくとあ拾
のほとを形りとあと思ハ義ハ出蔵の形

ちょくし　はかりと祖師もかつとらやを交りに来りあひまり
世ふいの人よ人鬼ハうのきとゆえるごとくいろをど邪見ある人をこいく
ぶるもは方より実を乱れあつてあいーらの時へ後世邪見ある人を
信心よりすくめ形り君ハ君をそこばるも臣ハ臣をうべく親ハ

○隙行駒の曲馬
をあるえ也さんちだわんぶつ家のしゆ
ありことのたひわやう大りそのあづけ
あちひこまらハをありきつたひふ
うきれいろ身ありうちうやかぐ
むきえどちよくいりあきのくろうどん
まつハ家るの大あくりちと
うけあるくもざいりくの
えでうるうぎ世るの
ものづりちるハも
つぢたんの
ひあうて
ざうをつくるも

●あづまじゆん　えうぐも

あく
そのひとあつて
あふニウハあり　かどふ
のろ人くどく人ちうや
むきそうるひ火のえんだんも
よるひ　わるこ世とあの
なら見めもなあるくとあのきくを
のらふわるあハそあるくるあり
ゆうきうだハこうゆんの矢とう
色とあちふ月日のうろわるこあれば
いぞちんえんのさるのきやうけんこうとを
くくうりんの世元ありせーく　ふちまきくく
まうきのうこうぢちの利見ひあやくとあのひづあ
ちとう　あうとこあり　目ぜきちうきまふんと宵月●

橋の擬宇を渡る小僧
浮世てうの一本綱
玉藏の精親を問答

心の仏と七鬼の角切る

因果應報

禍

福

[まことのつきさ]

視さるべきもの多くあるべし

世間は是唯心の泥洹といふ悪しきものとも

こゝろを心は鬼といふ地獄極楽こゝに我心あり

心の鬼も善人の掬の仏ふなのあくに修えん涙をあゞ角を折ること

是いつゝる鬼乃目にもあらぬ形なるべし

凡人なる者善を行ふ時は天これを福祐くゝ

行ふあり悪天是を禍ひを下ーあり凡夫の眼に見えざれども

其賞罰の只早きと遅きあり又仏のおしへ三世因果

いふ支あり文も前の無あるべし此書を報ひ

百性ふ一家ふ常と正法の人あり非業の死とまるが如し今生

いかゞ祈心ぶけれども貧て過ぐ報ひ尊きあとの人くさう是を

仏も不便と思ひもとゝ要生への見せしも因縁は車の輪にかけて

此世ふ其むくひのり又此世あて悪をいくゞ先の世へもふる子孫よ

報ふあり谷定九郎ふ強盗前の世此世とも悪行とゝくゞ

立所の天罰とうけ場所ふ恩報ひ二ツ王ふ有れ思ひ

勘平が親の歌と詠ーも凡夫の業にのゝ

ても其の闇ふ福らひもあれ鉄炮が定九郎ふ胴後二ツ玉も

打當るといふも皆これ天の報せる所也勘平ふ歌と詠

あるあり勢平も弱の仇を討て苦心よろこて女房の身は代
をぜん其分ふ房り主君の恩に主ども一旦若氣の誤りあも主
の家の法度に犯しあるとの不義僥倖へ武士の身と侍く場所
柄も顧ず其上主人の恩大事に居合ぬる是又大胆不敵
言語同斷あるべ其罪遁て而自優と切く是を法く
あふ鳴呼天の賞罰明らかこの者の若永の名無はごとく
天ふはあり人を以く罰を罰て懲しむべ
古語ふ曰君は舟臣は水なり水よく舟を載
といふ夏あり桀紂を放逐る主人とうこのあて進退退くを

自由にとるも水ふ法をくる家業の忠義なり人の臣ら者ひと
風の好き時の海水は如くたのくふ特不義悪の波風ら
ゆ心ふ心ゆけ陸ら主人ら舟と身護りて大切ふ
然るに死は千万里の海山といえども其舟とも無ら又家臣
そうふなのくび其主人ら人も愚なる時は家来の為ふ舟
と表とあり陸ら心紙用ひつるべ舟ふ法をくの家業
の善ら悪ら紙又分ら天氣のよいと見ら如く是を法
我身おそくさるべ帆とあげ揖紙とるごと其身を張むは舟と
上ふ造るが如く我身の放埒なは舟の座ら水のさとごと

名角一ぐ小老らんとすとあやまちなり心の淺と考へ慎むべし

帝城巻く 鶴の淀ともろもが肝要なり

世上の人仏神を信ずるふたひある縁り多し神佛を信じ

ふ法ねぐ我身の行ひとなく慈悲善根正直潔白に心誠

持神仏の教へ小叶ふやうに身を持て敬信心せば何ぞ利益

なるんや法ふ如くせの多い時の神さきにく名聞利

欲のため先神仏を祈て願ひ祈て願ひ祈ふ心を

よせ行ふ時ものを祈まそて神仏守り給ふ様の祈り

叶ひ多く祈らばそも神やるんけ色とりて希へ知るべし

人ものめ生ふ様しむべきハ色欲なり聖人も仏も古聖と

第一の楽やの法ふく苦人と考る人唐土周の幽王ゞ褒姒

玄宗ハ楊貴妃をそゞの美人の面を傾け城と傾ふ

のぞえが色なだ女と男ハ命ハ斧の身をきく鉞なり

東坡先生の曰男女の淫楽ハ喉き髓を抱き美人とハ

一ト皮むけバ下ハ見苦き白骨なりと思ふべし

夫婦とハ前生ふく深き因縁ある夫婦よき女

愚多る不男ハ夫を持賢き優男醜き女を妻ふ多も皆

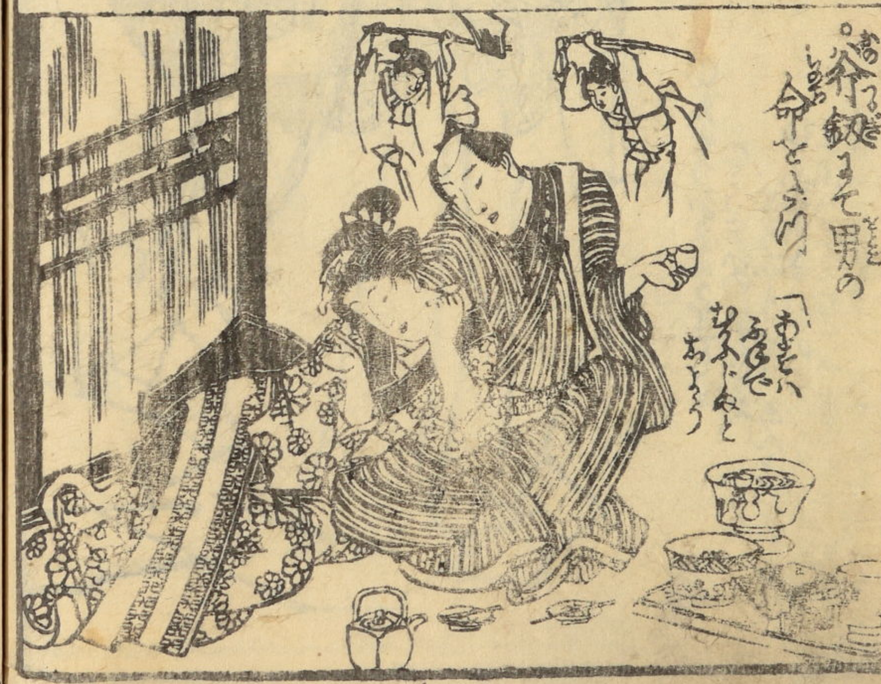
拙き人の縁つく形れで白眉故事に出る月下老人と

臣ハ水君ハ船とゐる諺

①

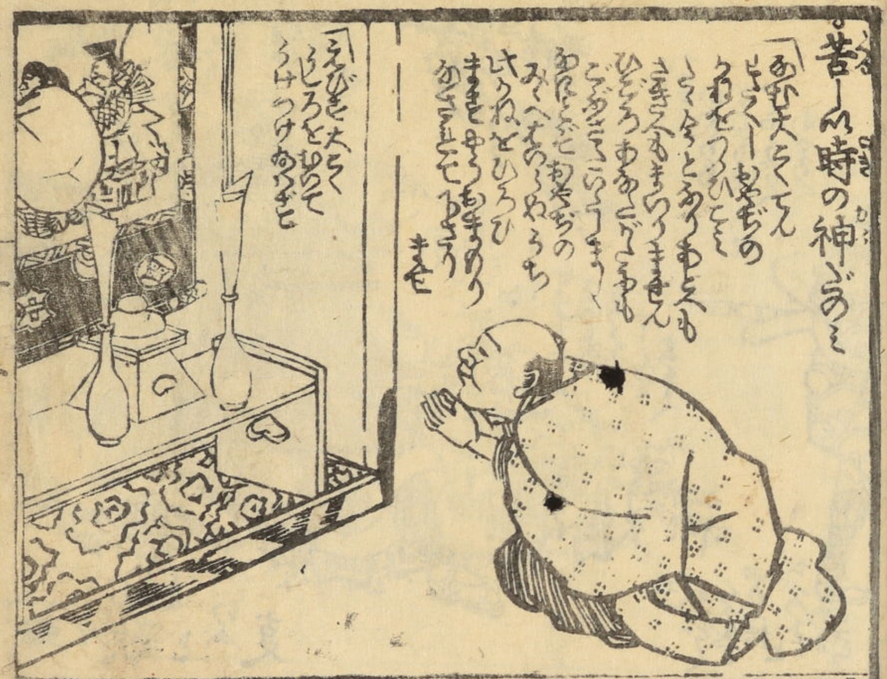
①大せうあるうろぎとを
ゆこどうのあそとるく
どうせーめんとをれども
ゆふゆもどいはのうろうじんさん
そふはとられとこの男のあふみみんと
ゆうろをあるあくどのあるのあるのあるこび

○正直の頭ふ神ぶる



○行鉢まで男の命とうり

○苦しん時の神ぶる



千両箱ニ入る縁ハ異国物

夏と敵

金の番人

家内和合
子孫繁昌
長久の基

つぎの
いえるのおりて妻の中ふかき縄と入て其縄にかりて男女
の足に結び付る所を堅と陽とも巡り達て終ふ夫婦一生と
なるといえり故ふ夫婦は縁を紅糸の縁といふ式の積幽怪録
又書言故事ゆもうくうり月下老人ハ俗ふいふ結ぶの神なり
されバ夫婦とあるハよくくふき縁ぞとつて睦まじくまぐきるように
あれくと人とくと利欲より其身をとて真実さるべ世俗の藤ふ
も金ら敵といえり金銀の人を害もるるまくひのいろ
欲ゆ死金を積まぬるとも死る時ハ皆金く行ぶあるべ
へのしで死る者金銀を持てゆんや身ふ銀ぜぎ天理に叶ハざる

富貴と祈ら八大ひなるもうるまこ只夫くの家業を大切ふ勤矣
親兄弟と学こと能を学ぶる程の所へいろくぶ外ふ欲とかくて
くべ一生と金銀を持てかえて苦こと楽る人多愚なるの
形りの程富貴ふ求る連も浮世のそ形く危ふきの無上ハ座る
ぐ如 義ふ対て且富るハ我ふ有ものくらく久る雲の如一と古人もいとう
世ふ住ものハ雲ぞ雲ぞ今日富貴ふ有ものも明日ハ貧ものの
と知りつ不義の金銀ゆ貪るべ涙
一百三十六地獄とのハ皆我心ふ有ものぞ我ものの心ふ闇羅王
俱将袖手頭手頭阿防羅刹劔の山三途の川火は車迫ぜく

[illegible]て我と我心の地獄へ落るを悔まずして何とか
唯一家の百代の易乃基を思べし祝ハ五人慈悲の子に親の恵
尽夫へ妻と懐ら女夫婦ハ兄弟と兄弟ハ主人と
家来と家内家法又ハ人倫忠孝ハ
形く勤むる時ハ自然と家内和熟して穏なるべく能治まり
是皆夫くの身の行ひより形り神儒仏三教信ずべ者
夏者孝徳と授ん人と思べし教を初名ぶのべんべく
蒙ハ孝ハ自然形り
世道と儒一同ゆんと思べ銀六四百本ぎ又項恩堂本屋又助方板り
御高札之写といえる書をかのべ

御免 御高札之写 半紙本 中形本 全一冊

主従日用條目 火の用慎 各一冊
民家必用條目
奚齋英泉筆

繪本英勇鏡 全三冊
哥川國直筆

繪本武者袋 全一冊
諸職必用 紋切形 奚齋英泉輯
山田常典大人校

百人一首女訓抄 全一冊

人間七
獨案内 善惡道中記 筆葬主人作 溪齋英泉画 全一冊
人間一生の行ひを道中記に作り善惡の分別のおもむき

同 迷所圖會 同第三編同作 國芳画 全一冊
おなじく名所圖會のごとく面白き事なり

同 迷所一覽 同第四編同作 貞秀画 全一冊
おなじく二編の作にして其うれしきことなり

同 貧福悟道捷徑 同第五編西馬作 國輝画 全一冊
貧福の中善惡の情態をあらはす

同 善惡色欲三道 同 全一冊
善惡色欲の三道を分ちたるものなり

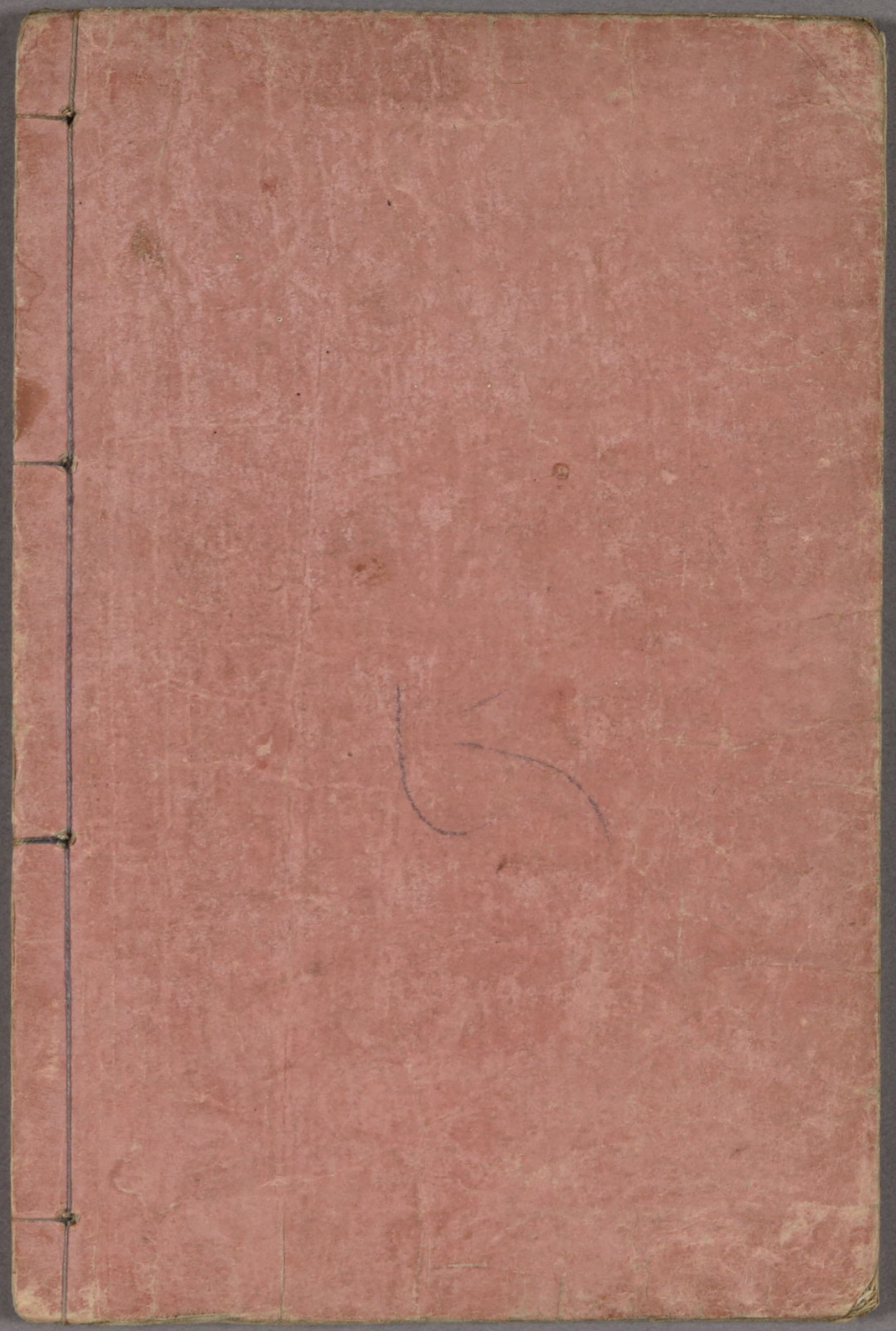
同 六編七編 追々出板

梱撲 改正金剛傳 立川馬馬作 全 陽齋豊國画 冊
當時現在の力士を集めて一番づつ名をのせたるなり

力競表裏 相撲取組圖會 同作 同画 全一冊
力士番付を表裏に組合せたるものなり

實語教童子教餘師 全一冊
實語教童子教の二書をひらがなにしるしたるものなり

增補繪本實語教童子教餘師 全
實語教童子教の二書を一冊に編成したるものなり

畧画手本 淨瑠璃圖會 西宮齋戲筆 全一冊
淨瑠璃の名所を画にしたるものなり

嘉永 東都書肆 正月再刻 頂恩堂 京橋銀座四町目 木屋文助梓